

年末年始の「しきたり」スケジュール

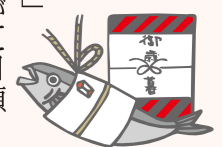
師走からお正月までは、情緒豊かな行事や風習が続きます。いわば年末年始は、日本の昔ながらのしきたりを見直すのにちょうどよい機会。さまざまな行事の由来を紐解きながら、年末年始のスケジュールをたててみませんか？

12月

[初旬～]

お歳暮

新年に先祖の霊を迎えるために必要な供物を、本家や親元に持って行く「歳暮の礼」という古来の習わしが起源とか。これがやがて日頃お世話になっている人への年末の贈り物を表す言葉となりました。



[13日]

正月事始め(すす払い)

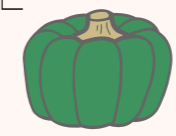
江戸時代よりこの日を「年取りの始め」「正月事始め」とし、お正月の準備を始める日としました。この日を目安に門松用の松を切り出したり、神棚や仏様の「すす払い」を行ったそうです。



お墓とお仏壇のクリーニングについては特別付録をご覧ください

冬至

カボチャを食べ柚子湯を楽しみます。野菜不足になりがちな冬、昔の人にとってカボチャは貴重な栄養源で、「冬至にかぼちゃを食べると風邪をひかない」と言われたのもこのような理由からです。



[～28日]

お飾りの準備

29日の餅つきは「苦がつく」、31日の正月飾りを「一夜飾り」といって避けるのが一般的です。「正月事始め」から準備を始め、余裕を持って済ませるようにしましょう。



[31日]

年越しそば

そばは切れやすいことから、新年を迎える前に古い年の苦労や災いを断ち切ろうと、大晦日にそばを食べるようになった説があります。今では、細く・長いそばを食べることで「長生きできる」という意味合いが強くなりました。



[31日]

除夜の鐘

新しい年には良いことがあるようにと願いを込め、寺院では大晦日の12時をはさんで108回、除夜の鐘をつきます。この数は人間が本来持っている煩惱の数で、それを祓う意味があります。

[1日～7日]

初詣

もともとはその年の縁起の良い方向に詣でる「恵方参り」に由来し、元旦に限られた風習でしたが、現在では7日の松の内までに行けばよいとされています。

厄払い

初詣のときに一緒に済ませる、または節分までの間に済ませることが多いようです。厄年とは「災難が身に降りかかりやすい年齢」をいい、この期間は身を慎み、厄払いをする習慣があります。

●厄年は男女で違います
男性：25歳・42歳(大厄)・61歳
女性：19歳・33歳(大厄)・37歳
※これは数え年なので、今年の誕生日前の人には「満年齢+2歳」、すでに誕生日を迎えている場合には「満年齢+1歳」で数えます。
また厄年の前年を「前厄」、厄年の後年を「後厄」として、3年間は注意をします。



いつ見る夢が初夢？

江戸時代前半までは大晦日の夜から朝にかけてみる夢とされていました。ところが、宝船の絵を枕の下に置いて寝ると縁起がよいとされてからは、この「宝船の絵」が売られる元旦の夜、または1月2日の夜に見る夢が初夢とされるようになります。今では、大晦日の夜、元旦の夜、1月2日の夜と、3通りの説があるようです。



昔のお年玉は「お米」！

お正月にやってくる歳神様からの贈り物として、年長者から年下の者に、お米を白紙に包んでひねったものや、丸餅を贈ったのがお年玉のはじまり。さらに時代が進むと、男の子には刀や凧やすずり・筆、女の子には羽子板や扇子、きれいな小箱(紅箱)などが贈られました。



門松は歳神様への目印

歳神様は、先祖の神様とも、田の神様ともいわれ、年末の13日に準備された門松を目印に1月7日(地域によっては15日)の小正月まで家に滞在するといわれています。つまり門松は、お盆のちようちんで先祖を迎えるのと同じく、歳神様を迷うことなく迎え入れる役割を果たしています。

ご存じですか？春の七草

せり……… 香りの良い水辺の山菜、食欲増進作用があります。
なずな……… 別称べんべん草。江戸時代は食材でした。
「ごよう……… 草餅に使われた草の元祖。解熱効果があります。
はこべら……… ビタミンAが豊富。昔は腹痛の薬でした。
ほとけのぎ……… 植物繊維豊富なタンポポに似た植物です。
すずな……… カブのこと。ビタミンCが豊富です。
すずしろ……… ダイコンのこと。消化を助けます。



[11日]

鏡開き

鏡餅を下ろし、雑煮や汁粉に入れて食べることをいいます。「切る」ことを避け、木槌でたたいて割るのが本来。「開き」としたのは、「運を開く」にかけたものです。

